

1. 件名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（島根2号機 設計及び工事計画）【312】

2. 日時：令和4年11月11日 10時00分～11時10分

3. 場所：原子力規制庁 9階D会議室（TV会議システムを利用）

4. 出席者（※・・・TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

新基準適合性審査チーム

千明主任安全審査官、中村主任安全審査官、服部(正)主任安全審査官、  
三浦主任安全審査官、谷口技術参与

技術基盤グループ

小林技術研究調査官、飯場技術参与※

事業者：

中国電力株式会社

電源事業本部 部長（電源建築） 他17名※

中部電力株式会社

原子力本部 原子力土建部 設計管理グループ 担当※

電源開発株式会社

原子力事業本部 原子力技術部 原子力建築室 担当※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 配付資料

なし

時間	自動文字起こし結果
0:00:03	規制庁のチギラです。それでは島根原子力発電所 2 号機、設工認のヒアリングを開始いたします。
0:00:10	本日の説明項目は、耐震計算書の建物構築物、
0:00:15	タービン建物と廃棄物処理建物となります。
0:00:19	それでは、本日のヒアリングの進め方と、資料の確認の方をお願いいたします。
0:00:29	中国電力、落合です。それでは資料の確認と、ヒアリングの進め方についてご説明させていただきたいと思います。まず資料の確認と、番号を取らせていただきます。
0:00:40	資料につきましては、全部で 7 種類ございます。で、提出日につきましても、基本的には 11 月 7 日の提出日になっております。
0:00:50	資料の確認をさせていただきます。資料番号が NS2 の添 2-002-07、タービン建物の事象と計算書、これ提出日は 2 月 14 日になっておりますけども、
0:01:02	11 月 7 日に再提出したものになります。これが資料番号 1 番とさせていただきます。
0:01:07	それから、資料番号 N-S2 の方の 024-03、タービン建物事象と計算書に関する補足説明資料、これを番号 2 番とさせていただきます。
0:01:19	それから、N-S 新野他の。
0:01:22	237、指摘事項に対する回答整理表、廃棄物処理建物の自主事計算書これを 3 番とさせていただきます。
0:01:32	それから、N-S2-添 2-002 の 09、廃棄物処理建物の地震応答計算書、これ提出日は 2 月 3 日になっておりますけども、これも 11 月 7 日にタイ、最低違算印刷して提出させ、
0:01:44	いただいたもので、4 番号は 4 番とさせていただきます。それから、N-S2 の方の 024-04、廃棄物処理建物事象等計算書に関する補足説明資料、これを資料番号 5 番とさせていただきます。
0:02:01	それから N-S に No. 2-002 の 10 番。
0:02:05	廃棄物処理建物の耐震性についての経産省、これを番号 6 番とさせていただきます。
0:02:11	それから、N-S2 のほうの 025-04、廃棄物処理建物の耐震性についての計算書に関する補足説明資料これを番号 7 番とさせていただきます。
0:02:21	資料につきましては、以上の 7 種類になります。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:26	それから、本日のヒアリングの進め方についてですけども、本日の説明範囲につきましては、タービン建物と廃棄物処理建物事象と計算書、
0:02:38	並びに廃棄物処理建物の耐震計算書、及びそれらの補足説明資料一歩になります。
0:02:44	それから、あと一部、2月と5月に、建物事象と解析モデルに関するヒアリングで、いただいたコメントについても、廃棄物処理建物についてコメントいただいていたので、
0:02:57	それについてもあわせて回答させていただきます。
0:03:01	それから進め方につきましては、当資料全体、この7種類の当初ですね、通して説明させていただきたいと思います。で、内容につきましても、これまでにご説明させていただいている事象と計算書と相違する部分を中心に、
0:03:17	ご説明させていただくこととしまして、大体20分ぐらいで説明させていただきたいと思います。
0:03:25	進め方、資料の確認と進め方については以上です。
0:03:29	はい。規制庁の干渉です。わかりました進め方については全体通してタイで20分程度で説明いただくということで、そのあと、こちらの方から確認等したいと思いますので、
0:03:42	その詰め方でいきたいと思いますので、よろしく願います。それでは、説明の方お願いいたします。
0:03:54	はい、中国電力の柏木です。ではまず、資料一番と2番を用いましてタービン建物の方からご説明をさせていただきたいと思います。
0:04:03	今回の御説明なんですけど、タービン建物廃棄物処理建物共通で、先行してご説明させていただいております原子炉建物と制御室建物、
0:04:13	事象と経産省でいただいた当初共通のご指摘があるかと思いますが、そちらについては今回資料にはまだ反映しておりませんが、今後担当者等、タイミングを合わせて反映する予定ですのでご承知おきいただければと思います。
0:04:27	では、タービン建物の地震応答計算書関係について最初にご説明します。資料2番の補足説明資料をご覧ください。
0:04:38	資料2番の補足説明資料の2ページですが、
0:04:42	タービン建物については別紙1から別紙5までご説明をさせていただきますが、このうち、別紙1から別紙3につきましては、建物と方針は基本的に同様ですので、タービン特有の内容というのは基本的にございませんので説明は割愛させていただきます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:59	別紙 4 ですがページ飛びまして 1185 ページ。
0:05:05	1185 ページお願いします。
0:05:19	こちらの別紙 4 はタービン建物の解析モデルで用いている床ばねにつきまして床ばね諸元及び自然形成を考慮した解析に関する説明資料になります。
0:05:30	1188 ページ、お願いします。
0:05:36	こちらタービン建物の水平方向の工認モデルであり、青字で示している部材が床ばね部材となっております。これらの床ばねのせん断応力動せん断ひずみ関係は線形でモデル化しております。
0:05:50	1191 ページお願いします。
0:05:56	基準地震動 $S_s-D$ から $S_s-N$ II EWの基本ケースにおける機能維持要求エリアの床ばねの最大応答せん断ひずみを算出し、
0:06:07	1192 ページ以降の表 1-2 及び表 1-3 に示しております。
0:06:14	また、尺 46011991 に基づき、せん断スケルトン曲線の台帳 0 点を算出し、 $S_s$ における最大応答せん断ひずみと比較を行った結果を、
0:06:26	1194 ページ以降の表 1-4 から 1-5 に示しておりますが、NS方向EW方向ともにですね、
0:06:36	一部の床ばねで台帳 0 点を上回るせん断ひずみが生じていることを確認いたしました。
0:06:43	続いて 1196 ページ、お願いします。
0:06:50	2.1 の概要のところですが、一部の床ばねで第 1 折れ点を越えるせん断ひずみが発生したことから、今回工認モデルにおける床ばねを弾性として設定していることの妥当性を確認する目的で、
0:07:04	非線形性を考慮した床ばねを用いた地震応答解析を行いと結果を確認します。
0:07:09	続いて 2.2 の検討に用いる地震は及び地震応答解析モデルのところの 2 段落目ですが、最大応答せん断ひずみはNS方向及びEW方向ともに、
0:07:20	基準地震動 $S_s-D$ において表生じておりますことから、工認モデルに対して非線形ばねを用いた地震応答解析での検討ケースは、 $S_s-D$ のNS方向モデル及びEW方向モデルに対して実施しております。
0:07:35	このときすべての床ばねを非線形バリエとして解析をしております。
0:07:40	次のページ以降で、弱 4601 をもとに設定した床ばねの非線形特性を記載しております。
0:07:48	続いて 1199 ページお願いします。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:07:54	ここからが今回工認モデルと床ばね非線形モデルの解析結果の比較になります。耐震駅の最大応答せん断ひずみは部分的に床ばね非線形モデルの方が大きくなるものの、
0:08:06	2.0×10のマイナス3乗以下となっております、全体的に今回工認モデルが、床ばね非線形モデルを概ね包絡していることから、タービン建物の耐震性に与える影響は小さいことを確認しました。
0:08:20	また機能維持要求エリアにおける床ばねの最大応答せん断ひずみは、総合で最大1.392掛け10のマイナス3乗で、2.0×10のマイナス3乗以下にこちらも収まっていることから耐震性に問題ないことを確認いたしました。
0:08:37	または機能維持要求エリアにおける最大応答加速度及び床応答スペクトルにつきましては、全体的に、今回工認モデルがカバーに線形モデルを概ね包絡していることを確認いたしました。
0:08:50	一部の接点で床ばね非線形モデルの方が大きくなりますが、設計に用いている震度及び床宇都スペクトルとの大小関係から、機器配管系の耐震性に与える影響はないことを確認いたしました。
0:09:03	次ページ以降に、加工土地及びスペクトルの比較図を記載いたしております。
0:09:10	別紙4の説明は以上でつづきまして、
0:09:14	1226ページ。
0:09:16	お願いします。
0:09:20	こちらは別紙5ですが、
0:09:23	タービン建物と蒸気タービンの基礎の相対変位に関する検討の資料になります。
0:09:29	1230ページの図面をお願いします。
0:09:36	こちらにタービン建物の平面図で、蒸気タービンの基礎を、赤色のハッチングでお示しております。
0:09:44	タービン建物と蒸気タービンの基最小の離隔距離は50mmと小さいので、タービン建物と蒸気タービンの基礎の相対変位の評価を行って衝突の有無を確認しております。
0:09:57	次のページ、
0:09:59	お願いします。
0:10:00	こちらに、
0:10:02	水平方向の地震応答解析モデルを記載しております、このうち赤線でお示している箇所が上記度の地層となっております。地震応答解析

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	モデルを用いて隣接する地点間の時刻歴の相対変位を算出しております。
0:10:17	1234 ページ、お願いします。
0:10:21	ここからが検討結果になっておりまして、
0:10:24	基準承認 1 に基準地震動 $S_s-B$ からN II EWIに基づく基本ケースの相対変位の結果を整理して示しております。
0:10:35	またさらに次のページですが、基本ケースの相対変位の結果が最も大きくなった基準地震動 $S_s-N$ 湾について、材料物性の不確かさを考慮した解析による相対変位の結果を整理しております。
0:10:49	基準地震動 $S_s-N$ 案に対する最大相対変位は、29.19 ミリとなっております、なっておりますクリアランスである 50 ミリを超えず衝突しないことを確認いたしました。
0:11:03	タービン建物のご説明は以上になります。
0:11:06	続きまして廃棄物処理建物の方のご説明をさせていただきたいんですが、
0:11:13	まずは、地震応答計算書の方をご説明させていただきたいと思います。資料 5 の補足説明資料をお願いします。
0:11:26	で、こちらは、別紙 1 から別紙 7 までご提示させていただいておりますが、
0:11:33	別紙 1 から別紙 3 についてはこちらも説明は割愛をさせていただきたいと思います。廃棄物処理建物特有の部分はCEOから別紙 7 になっておりますので、まず、別紙 4、
0:11:47	ですが、328 ページをお願いします。
0:12:04	別紙 4 は、 $S_s$ の解析に用いる地盤 3 次元モデルにおける誘発上下動の影響について検討した資料になります。
0:12:12	330 ページをお願いします。
0:12:19	廃棄物処理建物の基準地震動 $S_s$ の評価に用いる地震応答解析モデルは、地盤を 3 次元FEMでモデル化し建物基礎底面と、地盤の間には付着力を考慮してジョイント要素を設けていることから、基礎浮上がりに伴い誘発上下動の評価が可能となっております。
0:12:37	本資料では、廃棄物処理建物の接地率が最も小さくなる基準地震動 $S_s-D$ を対象に、誘発上下動応答と鉛直単独入力時の上下動と、この二つを比較しまして、
0:12:49	地盤 3 次元FEMモデルにおける誘発上下動の影響について確認をしております。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:12:56	331 ページをお願いいたします。
0:13:01	こちらの図が誘発上下動と鉛直単独入力時の上下動、この二つの最大応答加速度を比較したものになります。黒線が純粋な上下動になりまして、赤線及び青線が誘発上下動となっておりますが、
0:13:17	18 条下の方は、相対的に十分小さくなっていることが確認できます。
0:13:24	続いて 330、
0:13:28	2 ページ以降で、
0:13:32	同様に加速度応答スペクトルの比較をしておりますが、こちらでも誘発上下動が、十分小さいということを確認いたしました。
0:13:43	336 ページをお願いします。
0:13:48	こちら検討のまとめの部分ですが、2 段落目以降の部分になりますが、弱において、設置率 65%以上であれば、設計で考慮している鉛直動と比較して誘発上下動の影響が小さいとされていることを参考にいたしまして、
0:14:06	廃棄物処理建物においては、浮き上がりに伴う影響がないことを今回確認したことから、設計においては誘発上下動の影響を考慮しないことといたします。
0:14:17	なお、機器配管系の設計においては、念のため、廃棄物処理建物の設計用床応答スペクトルに誘発上下動の影響を考慮する方針としております。
0:14:28	続いて、337 ページから別紙 5 のご説明をさせていただきます。
0:14:35	こちらは、は、
0:14:37	建物基礎底面に付着力を考慮していることの検討になります。
0:14:42	廃棄物処理建物の弾性設計用地震動SDに対する字兵頭解析では、建物の基礎底面と地盤間の付着力を考慮した、浮き上がり線形の地震応答解析を実施しております、
0:14:57	浮き上がりが発生しないために必要な付着力が、付着力試験に基づき設定した値を超えないことを確認しております。
0:15:06	なお方針はですね制御室建物、以前ご説明させていただいた制御室建物の資料と同様なので、中身の詳細についてはご説明は割愛をさせていただきます。
0:15:20	続きまして、別紙 6 のご説明をさせていただきたいんですが、ちょっと回答整理表の
0:15:27	資料 3 番ですね、をお願いします。
0:15:38	資料 3 番の回答整理表の

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:15:41	1 番目と 2 番目のコメントに関連する部分ですが、こちらは 2 月 9 日の基礎底面の付着力に関するヒアリングでご指摘いただいたものになります。
0:15:51	具体的にコメント内容といたしましては、一つ目が、廃棄物処理建物について、ジョイント要素括弧付着力考慮を用いた 3 次元 FEM モデル。
0:16:01	等をスウェイ採用するに至ったプロセスを、各計算書の補足説明資料において説明すること。
0:16:08	二つ目が、廃棄物処理建物について評価する地震動により選定モデルを使い分ける考え方プロセスを、地震応答計算書の補足説明資料において説明すること。
0:16:19	というご指摘を二ついただいております。ご回答といたしましては解答欄に記載をしておりますが、モデルの選定プロセス、使い分けについて、別紙 6 に整理をしておりますので、
0:16:33	回答内容は、そちらの資料でご説明させていただきます。
0:16:38	資料 5 の補足説明資料に戻っていただいて、347 ページをお願いします。
0:16:47	こちらはモデルの選定のプロセスをまとめた資料になります。
0:16:52	351 ページをお願いします。
0:16:56	地震応答解析モデルは助役 4601 に示される浮き上がり非線形地震応答解析により、接地率を算定することを基本として、こちらの選定フローに基づき地震応答解析モデルを選定しています。
0:17:09	次のページをお願いします。
0:17:14	まず、 $S_s$ のモデルの選定方針ですが、接地率が小さくなる傾向にある $S_s-D$ を対象にいたしまして、表 2-1 に、
0:17:24	三つのモデルを記載しております。一番は、浮き上がり非線形 SR モデル 2 番は誘発上下動を考慮の SR モデル、3 番は浮き上がり線形の SR モデル、括弧付着力考慮。
0:17:36	これらのこれらによる接地率、もしくは必要付着力の算定結果を表中に示しております。これらが、これらの三つのモデルが適用範囲を満足しないという結果になりましたので、
0:17:50	先ほどの前のページのフローに基づきまして、④ 番のジョイント要素、付着力考慮を用いた 3 次元 FEM モデルを採用する方針としております。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



0:18:01	直江末数においては、地震動や方向に応じたモデルの使い分けはせずに同一のモデルを、Ssでは、すべて同一のモデルを用いる方針としております。
0:18:13	続いて、2.2の弾性設計地震動SDの選定方針ですが、こちらの方は、Ssの評価で付着力を考慮していることから、
0:18:24	同様にSDの方も付着力を考慮するという統一した方針とさせていただいております、
0:18:30	先ほどのフローの①番と②番のモデルは採用せずに、③番の浮き上がり、線形SRモデル付着旅行量を採用しております。
0:18:41	なおSDにおいても、同様に地震動や方向によるモデルの使い分けはせずに同一のモデルを用いる方針としております。
0:18:50	プロセスの説明は以上になりますが、資料3番の回答整理表にもう一度戻っていただきまして、
0:19:05	3番目のご指摘ですね、3番目のご指摘で、コメント内容のところですが、
0:19:11	廃棄物処理建物はSsとSDでモデルを使い分けることについて、ジョイント要素付着力考慮を
0:19:19	用いた三次FEMモデルと、浮き上がり扇形SRモデルの
0:19:24	SDによる応答を比較して、廃棄物処理建物の事業と経産省の説明において今後説明すること。
0:19:31	というご指摘をいただいております。
0:19:35	これに対するご回答についてですがこちらは補足説明資料の方の資料5番の別紙7でご説明をさせていただきます。
0:19:45	5番の360ページをお願いします。
0:19:54	このページ以降に、弾性設計用地震動SD-Dに対する、二つのモデルの応答の比較結果を具体的にお示しております。
0:20:06	詳細なご説明を割愛させていただきますが、それぞれの解析結果は概ね一致しているということを確認いたしました。
0:20:15	廃棄物処理建物の地震応答経産省に関するご説明は以上になります。
0:20:21	続いて、廃棄物処理建物耐震経産省の方をご説明をさせていただきます。
0:20:29	資料6の耐震性についての経産省をお願いします。
0:20:35	こちらの
0:20:37	11ページ。
0:20:39	11ページのフロー図をご覧ください。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:20:45	廃棄物廃棄物処理建物以外の他の建物については、耐震性評価に基礎スラブ等に対する応力計算、
0:20:54	による評価を含むため、耐震計算書については他の建物を後日個別にご説明させていただきますが、廃棄物処理建物については、こちらのフローに記載しております通り、
0:21:05	地震応答解析による評価で、耐震性の評価を行っておりますので、今回あわせてご説明させていただくことといたしました。
0:21:14	12 ページ、お願いします。
0:21:18	こちらの図の内ハッチング部については、Sクラスの施設及び重要SA施設を支持する範囲で、Ssに対する機能維持要求エリアとなっている部分です。
0:21:30	耐震計算書においてはこの事故機能維持要求エリアについて耐震性の評価を基本的に行っております。
0:21:37	続いて 17 ページをお願いします。
0:21:43	こちらの表が、地震応答解析による評価方法についてですが、
0:21:49	この表 3-1 に記載の通り、せん断ひずみによる評価及び保有水平耐力による評価を、廃棄物処理建物では実施しております。
0:21:59	具体的に、19 ページ以降で、それぞれの評価結果を記載しております、
0:22:06	詳細な説明を割愛させていただきますが許容限界を満足するということを確認しております。
0:22:13	続きまして、資料 7、
0:22:15	の、最後の資料ですね補足説明資料をお願いいたします。
0:22:25	資料の 3 ページをお願いします。
0:22:29	別紙 1、機能維持評価についてということで、こちらの資料の位置付けですが、ちょっと前のヒアリングになりますが、3 月 11 日の
0:22:40	評価対象の網羅性、既工認との手法の相違点に関するヒアリングで、
0:22:45	括弧付コメントでいただいております、廃棄物処理建物の機能維持評価の考え方について、上位クラス設備の配置状況も含めて、
0:22:55	廃棄物処理建物の耐震計算書で説明することという、括弧付コメントをいただいております、それを踏まえまして、作成した資料になります。
0:23:06	資料の 7 ページをお願いします。
0:23:12	先ほどの耐震計算書の方でも触れましたが、こちらが上位クラス設備が設置される範囲を、Ss機能維持維持要求エリアとして整理した図になっております。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:23:25	7 ページから 10 ページまでが、
0:23:29	機能要求エリアを示した図面になっておりまして、
0:23:33	11 ページをお願いします。
0:23:38	こちらの 11 ページが、解析モデル上で、機能維持要求範囲に当たる部分を示しておりまして、具体的にはEL8.8メートル以上の班が、廃棄物処理建物において正式の維持を受けるやとなっております、
0:23:53	この範囲について耐震計算書の方で、
0:23:55	整数地震時の一時機能について評価を実施しております。
0:24:01	ただし、いえる 8.8 メートルより下層も含んだ、建物全体としても、耐震比木のせん断ひずみ、及び保有水平耐力の評価は実施しておりまして、
0:24:13	廃棄物処理建物の地震時の構造強度の確認は、実施をしております。
0:24:21	廃棄物処理建物に関するご説明は以上になります。
0:24:26	両建物含めて以上で説明を終わらせていただきます。
0:24:32	はい。規制庁チギラです。ご説明ありがとうございました。
0:24:36	それでは、タービン建物と、廃棄物処理建物について確認する点があれば、ここを説明していただいた資料と提出資料、
0:24:45	に関してですね、確認する点があれば、お願いいたします。
0:24:55	以外ですかね。
0:25:00	規制庁の谷口です。タービン建物の、
0:25:06	補足説明資料、
0:25:10	の、
0:25:13	まず 9 ページ目。
0:25:28	地震応答解析モデルについては、多軸のうこういう視点系モデルにしているんですけども、
0:25:36	各矢点を構成している湯カーマた壁の範囲がよくわからないんです。これは、
0:25:47	添付資料の中で、例えば配置図とか書いてはあるんですけど、この配置の中のこの位置の部分をここ、分けて評価したというものについての記載がないので、
0:26:03	ちょっとその辺の説明の資料について、
0:26:07	記載をしていただくことは可能でしょうか。
0:26:34	規制庁チギラですが、中国電力さん聞こえ
0:26:39	繋がってますか。
0:26:41	中国電力の落合ですちょっと少々お待ちください。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:20	誰も、
0:27:22	そうですね。中国電力のカシワギすみませんお待たせいたしました。こちらのタービン建物については、建設工認の時から、特にその、
0:27:33	各支店の各支店がどの範囲を含んでいるのかっていうその区分、区分範囲というのは特に変更はございませんので、今回の新規制においては特にそれを記載、
0:27:45	をしないつもりでございました。以上です。
0:27:52	資料として今回提出している中身で、その辺が読めるようにしないと、もともとの工認でそうだったから書かないっていうのは、理屈になってないと思うので、
0:28:04	基本的にこの範囲をこの出典にしましたっていうのを、
0:28:09	何か別の資料でも営業してもいいと思いますけど、やっぱり計算書として一つの構成するものの中で説明していただくような形が、
0:28:19	いいかなと思いますが、いかがでしょうか。
0:28:27	中国電力の柏木です。内容承知しましたので、資料を作成して載せるようにいたします。以上です。はい。よろしくお願いしますその辺は、
0:28:39	非常に端折ってるイメージがあるので、基本的に一つの途上でか。衛藤。
0:28:45	まとまるようにしていただければと思います。よろしくお願いします。
0:28:50	それから 43 ページ目。
0:28:57	これもう、タイ地域の配筋図、これは参考で出してるって位置付けなのかもしれませんけど、
0:29:05	基本的にやはり、各階の配置図を載せてその配筋図を網羅して、全部記載するっていうふうにしていただきたいなと思います。
0:29:17	代表的に、
0:29:19	2メートルふら 5.5メートルのところの配置図と書いて廃棄物背景を記載してるとは思いますけど、これもう意識、今回のモデルに入ったところについて記載していただくことは可能でしょうか。
0:29:45	中国電力の落合です。衛藤。
0:29:48	田井新駅の配置、1 度配筋に関する資料ですけど、これにつきましては、減少建物のところでもご指摘いただいております、減少建物につきましては、少しその資料を拡充するような形で考えております。で、
0:30:06	ちょっと度建物とか、他の建物につきましては、基本的にこれはスケール度を算定するための諸元ということで考えておまして先行とか、これまでの費用、先行ヒアリングにおいても、スケール度の算定諸元を、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:30:22	きちっとまとめ資料補足説明資料の方で明記するようにということで、
0:30:27	そこにつきましては、この図というよりは、その前のところで、スケルトンを算定するための算定諸元ですね、鉄筋比ですとか、戸田面積ですとか、そういったところは、前のところの表で整理させていただいておりますので、
0:30:43	ちょっと廃棄人数の
0:30:46	対象の配筋図ですねちょっとこれにつきましては、代表建物代表フロアでの表、提示ということで、ご理解いただければと思いますけどいかがでしょうか。
0:30:58	して付ける等、今そげんだって話をされたんですけど、例えばせん断のスケルトンとか、例えば 41.6 とか 32 メートルのところなんかも、
0:31:11	同じようにあるわけですね。それで、
0:31:14	館金シモ横木シモ書いてあって、これの所見の元になるものではないんですか、この拝見って。
0:31:56	中国電力の落合です。ご指摘の点は重々承知しております原子炉建物の時にですねそこら辺のご指摘もいただいております、配筋図と、
0:32:07	その算定諸元スケルトンを算定する諸元につきましてもともと配筋図があって、そこからの鉄筋比でスケルトンを作ってるということではありますけど、ちょっと実情言いますと少しこれ、
0:32:19	全建物全フロアをこの配筋図の形にまとめるのは、
0:32:26	それなりにかなり
0:32:28	これですて、以前もですね先行のヒアリングとかを少し傍聴させていただいたときに、スケール井算定諸元につきましては、
0:32:40	この表の方でやって均 1、鉄筋の応力度ですとか 4 月パン費、これらを確認することをもって、耐震の設計を確認しているというような、
0:32:51	ご指摘もいただいております、多分そそれをもっと先行の方では表の方にはきっちり全部、全フロア、全大臣平均をまとめさせていただいて、配筋図に関しては、代表フロアということで整理されていって、
0:33:05	我々もするようにしております。で、ちょっと代表の重要な原子炉建物につきましては、先日ご指摘もいただいたので、ちょっと全建物、全フロアですねちょっとこの、
0:33:17	愛銀図の方をちょっと作るような形で考えておりますけども、いかがでしょうか。
0:34:29	規制庁のタニグチです。
0:34:31	ちょっとこちらでもいろいろ書き方について相談をしましたがけれども、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:34:38	一つの方法はせん断スケルトンの一覧表のなかの立木ひよこ金費のところに、
0:34:48	実際の配筋を、こういう配筋のもので、こういう立木決めましたっていうふうに、
0:34:56	記載するかっていう方法もあるかもしれませんが、
0:35:00	それか、今の各階ずれるか、どちらが
0:35:05	根拠となる配筋がどれで君くんだったのはわかるものは、
0:35:11	記載していただきたいなっていうのが今回の趣旨なので、
0:35:15	例えばすべて当局線の中の立木有効金のところに、
0:35:23	配筋を入れるっていう手もあるかもしれないんですけど、その辺、
0:35:31	記載する方法、方向として、
0:35:34	選択していただいてもいいかなと思いますけどいかがでしょうか。
0:35:49	中国電力の落合ですご指摘承知いたしました。ちょっと図の方の配筋図ではなくて、このスケルトンの算定表のところの鉄筋比のところですね。
0:36:00	ちよつとこら辺に配筋がわかるような形ちよつと数種類あればちよつと書き方も少し工夫する必要があるかと思えますけど、そういった形で少し配筋と適否の紐付けができるような形で、何らかちよつと考えて記載のほうを充実させていただきたいと思えます。
0:36:17	以上です。はい。その辺この、この根拠のために入れていただくというのが趣旨ですから、ちよつと考えていただいて
0:36:29	記載を追加してください。よろしく申し上げます。
0:36:34	中国電力の落合です。承知いたしました。以上です。
0:36:42	規制庁の三浦ですけど、ちよつと先ほどね、
0:36:47	タニグチの方から指摘があって、床スラブとか壁がどこがグルーピングされてた軸になっているかっていうのを図示してくださいっていう話で、
0:36:57	それをさせていただけるって話なんですけど、そのときにね。
0:37:01	なぜそういうグルーピングをしたのかっていう理由も含めて、図示をさせていただきたいんですがいかがでしょうか。
0:37:13	中国電力の柏木です。ご指摘承知いたしました理由も含めて、資料にまとめたいと思えます。以上です。
0:37:21	はい。お願いします。建設工事ん時と同じモデルってのがわかったんですが、おそらくフレームで壁がない部分グルーピングしたとかここは壁があるので、ここは切り離れたとかそういう、
0:37:34	ことをきちっと記載していただければなと思えます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:37:38	それとですね、ちょっとこれタービン建屋の
0:37:43	地震応答計算書、特に復元力特性を求めるところ、そこで少し引っかかったんですが、
0:37:53	資料 1 の 48 ページですか。
0:38:03	ここに示されてるように、
0:38:07	耐震駅のやつは弱 4601 の復元力特性を用いてますってということなんですよね。
0:38:15	一般的にタービン建屋というのは、必ずしも曲げ剛性を補強するようなフランジを持った壁だけではなくて、
0:38:26	フレーム内に入っている壁、要するに曲げ特性があまり強くない、そういうものについては、4601 の式を用いて算定するのではなくて、
0:38:38	せん断式として広沢式を使ってるというのが、
0:38:42	柏崎ですとか女川はその上にやってるんですが、今回その辺の壁をどういうふうに扱われてるんですか。
0:38:56	少々お待ちください。
0:39:15	中国電力の柏木です。今のご指摘ですがちょっと内容を社内で確認いたしましたして後日整理してちょっとご回答させていただきたいと思います。以上です。はい。規制庁の梅田です。私の言ってる意味は伝わってますよね。
0:39:30	要するに、
0:39:31	あくまでも 94601 の式はフランジ効果がすごく強いもの、これを対象にしたせん断式であると。
0:39:38	一般的にそれが成り立たないような普通のフレーム内壁っていうのは、広沢式、こっちの方もとしてせん断強度を落としてるんですね。
0:39:47	それが、
0:39:50	今回、何かこれだけ見てる等すべてヨシザキ式、弱毒 01 の式で求めるような、
0:39:58	他に記載がないんで、この求めているようなことになってるんですが、
0:40:03	これについては、潜航ともやり方が違うので、もしもそうだとすれば、きちっと説明をしていただきたいと思います。いかがですか。
0:40:16	中国電力の柏木です。江藤おっしゃられたことは理解しております先行の手法と、当社の手法でやり方がどうなっているのかその辺も含めて整理してご回答させていただきたいと思います。以上です。
0:40:35	はい。規制庁の三浦です。その次なんですが、これも添付資料。
0:40:42	資料 1 ですか、1-112 ページ。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:40:47	かな、112 ページ、
0:40:50	これ要素番号 8 番、MI関係見てみると、かなり曲げ回転角。
0:40:58	これが進んでますよね。
0:41:00	曲率がですね、115 ページ。
0:41:04	要素番号 24 と 25 見ると、これも県の教育率がかなり進んでいますよね。
0:41:13	おそらくこれは曲げ剛性が小さくて、全体層間変形変形を取ろうとするときに研究を主体的に取っちゃってると思うんですが、これについてはどのように、
0:41:25	考えられてますか。
0:42:03	中国電力の柏木です。
0:42:05	今おっしゃられた、芸のところの話で、
0:42:09	直立が曲率で大きくなっているところについては、確かに
0:42:18	第 2 折点を超えて、第 3 フルタを超えてくる場所ありますけれども、終局点には、基本的に達してないと達してないので特にその評価としては問題ないかと思っております。
0:42:30	以上です。
0:42:31	規制庁の三浦です。それ十分理解して物を言ってるんですが、なぜこの曲げ変形が曲げか曲率が進んだんですかその理由について説明してくださいっての私の意図です。いかがですか。
0:42:57	中国電力の柏木です。ここで進んでるのは曲げ剛性が小さいからという理由、しかないかと思ってるんですけれども、ちょっとその辺、何でここが小さくなってるのかその辺は、
0:43:09	ちょっと図面と照らし合わせて確認いたしましてまたご説明をさせていただければと思います。以上です。はい。規制庁の梅田です。曲げ剛性が小さいから、
0:43:21	曲げ変形で、全体変形を取っちゃってるってことなんで、もうこれについてはあれですね、補足説明書の方に、
0:43:28	こういうふうになってるからということでちょっと考察を入れていただくと良いと思います。いかがでしょうか。
0:43:35	中国電力の橋田ですはい表示いたしました。補足説明資料の方で 7 日ちょっと考察を入れさせていただきたいと思います。以上です。はい。規制庁の植田です。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



0:43:46	これ先ほどの話とも絡むんですけど、結局こういうふうに曲げ剛性が進んでしまうってのは、先ほど言ったように下のフランジ効果とかがってのは小さい小さい壁なんですよね。こういうものに、
0:43:58	事業の①の式を適用してしまうってのは本当は、
0:44:02	問題なので、通常は広沢式で置き換えてくるというやり方をしてるんで、そのこともちょっと念頭に置いて、先ほどの回答を作ってください。
0:44:15	中国電力の柏木です。はい。ご指摘、承知いたしました先ほどの復元力特性のところの話も含めて、補足説明資料で、ここの曲げ剛性が小さいところ、
0:44:28	第2折点を超えてくるころななんでこうなってるのかっていうところも、合わせて整理して、補足説明資料でご説明をさせていただきたいと思えます以上です。はい。よろしくお願いします。それ等、今度は、
0:44:42	補足説明資料ですね、資料3番から、2番ですね、2番の1119ページ、1199ページ。
0:45:05	5119ページこれ先ほどちょっとね、ご説明になられたんですが、最後最後の行。
0:45:12	設計に用いている震度及び床応答スペクトルとの大小関係から、機器配管系の耐震性に与える影響はないことを確認したと書いてあるんですよね。
0:45:24	これ、確認したのはいいんですがそれに対するエビデンスが入ってないんですけど。
0:45:30	これ実際の震度とか、床応答スペクトルの大小関係これを具体的にここに記載していただくことはできますか。いかがですか。
0:45:47	はい。中国電力のクラムスです。背景機械関係側への影響ということで、ちょっとここでは確かにちょっと定量的にお示しできていないかなというところはいちご指摘の通りかと思えます。
0:46:00	実際に設計に用いている震度及び床応答スペクトルについては、各支店ごとに設定というよりは建物のエレベーションごとに、同一エレベーションの失点ノートを包絡させるような形で設定したりですとか塗布スペクトルについては拡幅、
0:46:18	称していたりとか今回は基本ケースに相当するところの応答での比較でございますけども、設計としては難しく不確かさケース等も包絡させて設定する。
0:46:28	ですとかそういった設計用の配慮がございまして、実際にはその設計条件ではカバーできているというところになります。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:46:36	はい。ご指摘踏まえまして、ちょっとすべての条件を網羅するようというところになるかわかりませんが代表的に
0:46:44	対象関係がですね逆転しているようなところについて、実際の設計条件ではカバーできているというところをお示しするように、追加したいと思います。以上です。
0:46:55	規制庁の三浦です。今蔵本さんのおっしゃるまわし、これ多分、出典 11 が一部で、超えてたりするっていうことだと思うんで、ここだけ取り出して、我々が実際にここに記載されてるように、
0:47:10	影響がないことを確認したってことを確認できるように、資料を追加してください。お願いします。
0:47:18	はい。中国電力のクラムスです。承知いたしました。
0:47:21	はい。よろしくお願いします。
0:47:24	あと、
0:47:25	廃棄物処理立てやーについてはコメント回答もちゃんとなされてると思いますし、今までご説明なられた方針に従った計算書がちゃんとできると。
0:47:36	いう理解をしました。
0:47:38	資料ナンバー5 番。
0:47:42	ですね、5 番の補足説明書ですか、その、先ほどこれも御説明ナガタ 352 ページ。
0:47:52	ここで幾つか確認をさしてください。
0:47:56	まず 1 点は、これプロセス、なぜこう 3 次元の地盤解析に持ってったのかプロセスを書いていたいただいと。
0:48:05	NSとEWでこの傾向が違うんで、これはあれですねまず方針とすれば、NSEWのいずれかの設置率が、その適用する除外条件になれば、
0:48:20	まず、そのルートを動かしていくっていいですね、NSEWどちらが厳しい方を、
0:48:26	を念頭に置いて同方向で分けることはしないで、同じモデル化でいくって理解をしたんですがそれでいいですか。はい。
0:48:41	中国電力の柏木です。江藤ミウラさんのご理解の通りで、NSとEWの厳しい方の選定に合わせて、もう一方の方向も、
0:48:51	同じモデルを使用するという方針にしております。参考として、
0:48:56	今、小児の 1 のところですが例えば、一番のEW方向で 44.6 になってますが、NS方向も一応参考として、どういう設置率になったかっていうの

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	を記載しているというそういう位置付けになります。以上です。はい。理解しました。先ほどご説明になられたように、
0:49:13	自社に関しても一番厳しいやつで、接地率取ってやってそれを全部の地震に展開するっていうことなので、
0:49:21	方向性についても厳しいを取ってやってそれを全部に展開すると、そういう理解ですよ。
0:49:27	中国電力の柏木です。はい、ご理解の通りになります。以上です。はい。ありがとうございます。あと、③番で、浮き上がり船型SRモデルの付着力考慮っていうやつがあって、これ、
0:49:40	組み合わせ係数法による鉛直力、これ 0.4 になるかな。
0:49:44	これ組み合わせてやった結果が付着力として、0.4 オカオーバーしてます。だから地盤 3 次元ですっていうストーリー。
0:49:53	ですよ。これ、
0:49:55	ちょっとこれは質問なんですけど、この時に、
0:50:00	付着旅行の浮き上がり船型SRモデルをやろう。
0:50:07	そっちに持っていこうと思わなかったのはなぜですか。
0:50:25	中国電力の落合です。ちょっと質、ご質問のところを確認させていただくと、付着力航路の浮き上がり非線形ASRってのは、建築学会の文献で出ている衛藤。
0:50:37	浮き上がり非線形の非線形特性のところ付着力を考慮して浮き上がり限界モーメントをふやしたやつでやった、やる解析のことをおっしゃられ、
0:50:48	まさにその通りです。電共研で検討された、今、大屋さんが言われた通り、そっちへ持って行かなかったってのはなぜかなっていうのが一つと、実際そういう、そちらの方の、
0:51:01	影響解析をやってみたりしてます。
0:51:04	ちょっとそこだけ教えてください。今最終的に坂さんに持ってってんで、それがいい悪いって話じゃなくてもこれは話が終わってる話なんですけど、
0:51:13	なぜそういうふうに持ってこなかったのかっていうところをちょっと教えてくださいいただけます。
0:51:26	中国電力の落合です。実際これをやるそれをやらなかった理由はですね先行実績ですね先行の審査実績で工認ケースで、付着を考慮した浮き上がり非線形はちょっと実績がなくな。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:51:41	なので採用いたしませんでした。で、確か補足説明資料では前項でもされた実績はあったと思ってますんで、それに関しては、先日付着の
0:51:55	付着力能アノ審査会合資料の中で、減少建物で着考慮した解析をやらせていただいたのはあれは
0:52:04	浮き上がり非線形の付着量を考慮したうちが浮き上がり線形解析、あれで、簡易的にやらせていただいたものはあります。ただ、このradに、廃棄物処理建物につきましては、その解析はや、
0:52:17	ておりません。以上です。
0:52:20	わかりました。
0:52:22	これあれですね今落合さん言われた通りね、これ他のプラント等でも請負厳しいやつは、
0:52:29	シャックルコードでやってる事例もあるんですけどね、原子炉建屋がそれを使ってるってことですね、こないだやられたね。
0:52:37	これ結果ってのは原子炉建屋はFEMをやってないのか。
0:52:43	わかりました。ちょっと考え方の確認だけなので、要するに工認実績がなかったんで、工認実績がある3次元地盤モデルを持ってっただけのことですよ。
0:52:56	中国電力の落合です皆さんの今おっしゃった通りです工認実績の方を優先して、フローの方は作成させていただいて、ただ、補足説明資料の方では実績もあったので一部そういったケースもやらせていただいと、そういう、
0:53:09	位置付けになります。わかりました。基本的に3次元地盤モデルで、付着力功労場イトウ数入れたやつと、今、1次元でやったやつはほとんど一致してくると思うんですけどね。
0:53:20	そういう意味では、特に問題はないと思ってます。今の確認だけですコメントではありません。
0:53:26	はい。私からは以上です。
0:53:33	はい、規制庁チギラです。他に。
0:53:36	会議室から。
0:53:38	確認する点あれば、
0:53:43	規制庁のハツリです。ちょっと先ほどの説明で、
0:53:47	ははっきり理解できなかったんで少しだけもう1回だけ説明をお願いしたいんですけど。
0:53:53	廃棄物処理建物
0:53:58	機能要求範囲外のところの評価についても、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:54:02	確認はしているって言ってたんですけども、
0:54:06	それは自主的に確認した。
0:54:09	この、この資料にはないけど、
0:54:12	自主的に確認してるという意味でとらえていいんですかどうぞ。
0:54:20	中国電力の柏木です。
0:54:22	今おっしゃられたのが、
0:54:26	資料 7 番の
0:54:30	6 ページの一番最後のところの記載、
0:54:35	構造物全体としては、耐震液位のせん断ひずみ及び保有水平耐力の評価を行っておりってところの、
0:54:42	話だと思っているんですがそれでよろしいでしょう。
0:54:46	規制庁の服部ですそうですね耐震評価の方ですね地震応答解析ではなくて耐震評価のこの 7 番のところで最後さ、社員、一番最後の最後にそうおっしゃったと、いうふうに記憶していて、
0:54:58	そこはちょっとどうなのかなって少し思ったので確認だけお願い念のための確認だけしています。いかがですか。どうぞ。ほ
0:55:06	中国電力の柏木です。
0:55:08	添付資料の方と補足説明資料の方、それぞれで、保有水平耐力、
0:55:15	投影等、せん断ひずみについては仮想の方まで結果、結果は載せております。ただ耐震性の評価の
0:55:25	資料 6 はですね耐震性についての計算書内で具体的に評価をしているかというとしてないんですが、結果自体は載せておりまして、それを、
0:55:34	自主的にといたしますか、それでOKだということは確認をしていると、そういう状況です。以上です。
0:55:42	規制庁の服部です。すいませんちょっと私の理解が追いつかないんですけど、
0:55:47	これ 8.8、EL8.8 メートルより下が、
0:55:52	機能要求エリア外になっていて、
0:55:56	その 8.8 メートル以下の補体の保有水平耐力の評価とか、
0:56:01	そういうのはどこかに載ってるってことで理解すればいいんですか。
0:56:06	載ってるんならそれどこに載ってるんですかっていうことなんですけど。
0:56:40	中国電力の柏木です。具体的に申し上げますと、
0:56:46	資料 4 番。
0:56:48	こちらが、廃棄物処理建物事業と計算書になりますが、具体的にはこちらの 68 ページをお願いします。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:56:57	こちらの 68 ページ以降でそれぞれの応答結果を載せておりますが、ここには、先ほどの機能維持範囲外の部分の 3.0 から 8.8。
0:57:11	元結果を出しております、
0:57:19	あと、例えば 72 ページ、お願いします。
0:57:24	72 ページに最大応答せん断ひずみを出しております、一番、表の一番下のところでいえるは 3.0 から 8.8 の部分で、
0:57:34	ひずみの最ひずみの最大値が、許容値を満足しているということを、自主的に確認しておりますとただ、耐震計算書の方で、許容値との比較という意味では、記載をしております。
0:57:50	あと保有水平耐力の方については、ちょっと先ほど間違えてお伝えしてしまっただけですが、
0:57:56	資料 6 の方の、
0:57:59	耐震経産省の
0:58:03	最後の、
0:58:04	24 ページですね、24 ページのところで、保有水平耐力につきましては、こちらの計算書上で記載をしております、評価、評価について記載をしております。以上になります。
0:58:18	規制庁の服部です少々お待ちください。
0:58:30	規制庁の服部ですはいわかりました
0:58:35	確認できました私からは以上です。
0:58:53	規制庁の三浦市ちょっとお待ちいただけますかこちらでちょっと話をしたいと思いますので、
0:59:01	中国電力の柏木です。承知いたしました。
1:00:36	あ、ごめんなさい規制庁の三浦ですけど、自主的についてお話あったんですけど、
1:00:43	例えば最下層が壊れちゃったら、
1:00:45	木野Jも当然壊れちゃいますよね。上が壊れちゃったら、それが落っこってきて機能維持上げらも、何らかこう破損してしまうってことありますよね。
1:00:55	だから、自主的っていうよりは今回全部計算書としては出てるので問題ないんですが、一応全挿に対してせん断ひずみって必要異性耐力を、
1:01:05	右脳を提示をちゃんとしましたっていう自主的じゃなくて、
1:01:12	やっぱり意味があるんだろうと思うんですがそこんところ当院お考えですか。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:01:20	中国電力の柏木です。今三浦さんおっしゃられたことについてですが、自主的っていう表現がちょっとこちらで適切ではなかったかなと思っておりまして。おっしゃられた、
1:01:31	通り評価結果はちゃんと載せておりまして評価をしているという、ご理解でお願いしたいと思います以上です。
1:01:39	規制庁の三浦ですけど、基本的にはだから、せん断ひずみとか使用してある耐力を確認することで建屋全体の崩壊はないってことをまず担保して、その中に存在する機能江尻については、ローカルにその部分のチェックをしていくってことですよね。
1:01:57	例えばスラブだったらスラブでその部分製するも使ったの検討もこれからサノ御説明なられるという、そういう理解なんですけれどもそれでよろしいですか。
1:02:06	中国電力の柏木です。戸松まさにおっしゃられる通りでその通りのご理解でお願い、お願いします。以上です。
1:02:55	はい。規制庁木田です。
1:02:57	では他に確認する点があるか。
1:03:05	規制庁の小林ですけど、ちょっと
1:03:08	細かな計算の方でちょっと一応確認だけしたいんですけど、資料番号⑤の廃血建屋の
1:03:15	今回付着力考えた別紙1-1、3次元FEMモデルオチ用いる事業と解析モデルのところで、一応ちょっと確認だけさせていただきたいのは、
1:03:26	21 ページ目になってるところに、FEMモデルモデル化の方法って文章書いてるんですけども、
1:03:35	一応アノき今回は基礎面部と地盤の間に付託を考慮ってことで、ジョイント用水モデル化したってことよくわかるんですけども、
1:03:45	一つ、基礎底面と地盤の間の水八鍬剪断力の伝達機構は、どのように、解析上考えてらっしゃるかちょっと説明していただけないでしょうか。
1:04:02	少々お待ちください。
1:04:48	中国電力の落合です。せん断につきましても、キスえっつとですね、十分剛なばねで、はく流とかをしないような形で、
1:04:59	ジョイント要素の鉛直のアノ、ジョイント要素が離れた時にはそのせん断も切れるような形でばねを設定して、十分剛性としては大きなばねを設定してたと。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:05:09	いうものになります。で、ここの辺につきましては先行で同じようにやってるこの3次元モデルと、同様にモデル化しておりますので、そのようなモデル化でっております。以上です。
1:05:25	お金の方わかったんですけども、もともと時アックでも考えているその参考文献でも、
1:05:34	今のはモデル場末せん断オクのばねのせん断力せん断。
1:05:39	変形のパネーっていうのも一応モデル化してあると思いますんで、ちょっとその辺ところもちょっとせ、簡単に絵として出ていただけないとそれで、
1:05:50	付着力計画はせん断ばねを外すというような変え方をしているところも、ちょっと明確に、
1:05:57	記載していただきたいんですけどどうでしょうか。
1:06:08	中国電力の柏木です。承知いたしました。せん断方向の特性についても何らか説明を記載したいと思います。以上です。
1:06:18	よろしく願います。ちょっとまた細かいことで申し訳ないんですけど、このような
1:06:24	ジョイント要素のところの、ばね脱ごうバネのモデル化減衰をどういうふうに扱っているのかモデル化するかということも、
1:06:32	説明付け加えていただきたいんですが、どうでしょうか。
1:06:40	中国電力の落合ですジョイント要素とか、この基礎底面と地盤間の減衰は基本には考えておりません。あくまで自部減衰、自分の逸散減衰としては、この地盤のFEM全体、
1:06:54	2源泉は持たせますけど、そこの間のばねには厳選を持たせていないという考え方です。以上です。
1:07:05	ちょっと僕、ばね要素には原資がないという事を説明でしょうか。
1:07:15	中国電力の落合です今おっしゃった通りです。以上です。
1:07:22	ちょっと細かい図も、全体の上間、現在の地盤も建物を含めた全体の減衰なんかモデル化してされてないんでしょうか。
1:07:47	中国電力のオチアイでちょっと整理してご回答させていただくとまず、建物の出店系のモデル化してるところにつきましては、通常やってる建物の方でも、減衰を入れてますんで、
1:07:58	あと地盤3次元FEMの地盤については、地盤の減衰を入れてますんで、ここの木曾島地盤三次FMの地盤をつなぐ、
1:08:09	ジョイント要素のばねについては、減衰は入れていませんと、そういう回答になりますけど、これ回答になってますでしょうか。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。



1:08:21	いいですかね。
1:08:32	わかりました。一応それでちょっと説明わかりました。ちょっと馬場千田のところでもっと説明をお願いします。
1:08:40	あと、ちょっとまた全然違うんですけどちょっと、これを確認で教えてもらいたいんですけども、先ほど
1:08:47	耐震性の計算書の評価部位で、
1:08:53	期、今回の
1:08:55	機能機能維持を、
1:08:58	要求するところもの壁を非紙の部分でことわかったんですけども、
1:09:04	今床スラブ、その機能を維持してる壁の基床スラブの評価を行うところですけども、
1:09:12	基礎面に関してはその下の方なので、
1:09:15	特に今回の
1:09:17	評価部位としては基礎SURC入ってないってということで、資料には書いてあったとそういう認識でよろしいのでしょうか。
1:09:31	中国電力の柏木です。今おっしゃられた通りのご認識でそういうことになります以上です。
1:09:39	わかりましたはい。
1:10:01	はい、規制庁チギラ谷津ほかにありますか。
1:10:06	よろしいですか。すいません。ウェブで参加されている。伊庭さん、何かありますか。
1:10:12	飯田ですけど私からはありません。ありがとうございます。
1:10:17	わかりました。
1:10:26	はい、規制庁チギラです。それでは規制庁の方からの
1:10:31	確認は以上となりますが、
1:10:35	中国電力から追加で何か補足等ありますでしょうか。
1:10:42	中国電力の落合です。当社の方から特に確認事項等ございません。以上です。はい、わかりました。
1:10:49	こちらからも特にない。
1:10:51	ありませんので、それでは本日のヒアリングの方を終了いたします。
1:10:55	お疲れ様でした。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。